

「抽象絵画の成熟と在外作家」

高松市美術館

コレクシヨンプレゼンテーション展



川端 実「門のイメージ 緑と紅」(1991)

'95年7月1日(土)~7月16日(日)

開館/午前9時~午後5時 金曜日は午後7時まで
展示室への入室は閉館30分前まで
月曜日は休館

高松市美術館

高松市紺屋町10-4 Tel.0878-23-1711

入場料/一般400円・高大生200円・小中生100円
(一般前売および団体20名様以上は2割引)

主催/高松市美術館

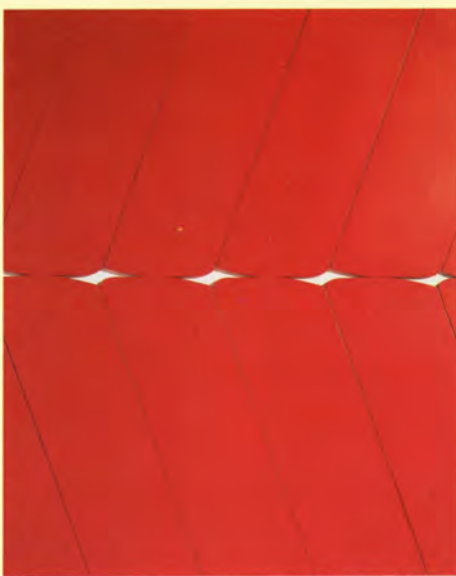
「抽象絵画の成熟と在外作家」

昭和20年(1945)第2次世界大戦が日本の敗戦によって終結してから、すでに半世紀の歳月を経ました。この間に社会情勢は目まぐるしく変貌し、新しいさまざまな状況が次々と生じては消え、また現に生じつつあります。美術の世界もけっして例外ではなく、戦後日本の現代美術ほど世界の美術思潮に影響されつつ短期間にあいついで大きな変革をともなった時代はなかったと言えます。このことは狭い日本だけに限られた現象ではなく、広く欧米など国際的な美術の動向にも共通して見られることですが、とくに1950年代後半以降にその傾向は顕著にあらわれています。

本展は高松市美術館のコレクションの中から戦後日本の現代美術を中心に抽象絵画の日本における成熟とヨーロッパやアメリカなどの在外作家の展開を軸に構成し、新しい造形思考によって多種多様な様相を示す戦後美術の遺産を概観いたします。



菅井 及「雲」(1959)



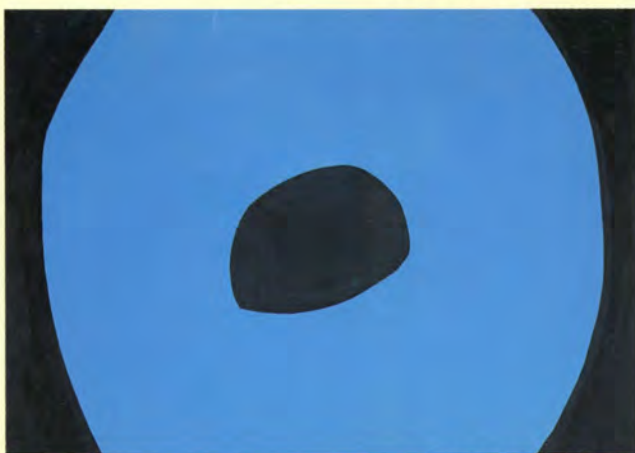
斎藤義重「トロウツド」(1973)



阿部展也「LAKE」(1970)



猪熊弦一郎「CITY PLANNING」(1965)



吉原治良「紺地に青い円」(1971)

□催し物のお知らせ

ミュージアム・コンサート

アルド&アンナ=ミネッラ デュオコンサート

7月13日木 午後6時30分 入場料1,300円

□次回の展覧会

ルーマニア国立美術館・ブルケンタール国立博物館所蔵

16~18世紀ヨーロッパ絵画展

8月5日(土)~9月3日(日)

□第2期常設展のお知らせ

常設展示室1

20世紀の巨匠たち — 菟醬の系譜 —

常設展示室2

8月24日(土)~9月3日(日)まで